

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	夢や志の実現に向け、知・徳・体の調和のとれた心身ともに逞しい人間の育成と、自分で考え自分の意志で行動できる力を育む教育を推進する。	学校整理番号	22
		学 校 名	青森県立六ヶ所高等学校
		課 程	全日制の課程
(2)現状と課題	本校生徒は、素直でおおらかで部活動にも熱心に取り組んでいる。生徒が自らの将来を見据え、主体的に学び行動するところ、相手の気持ちに寄り添った言葉遣いや適切なコミュニケーション能力の育成が課題である。進路は、就職から進学まで多様であり、基礎学力の向上、資格取得指導の強化が求められる。生徒の学習意欲を高め、主体的に取り組む姿勢を育ていくことが必要である。	自己評価実施日	令和8年1月27日(火)
		学校関係者評価実施日	令和8年1月30日(金)
(3)重点目標	1 規律ある学校生活と豊かな心を育む【○基本的な生活習慣の確立 ○安全・安心な学校生活】 2 確かな学力を育む【○基礎・基本の徹底 ○教師の指導力向上】 3 夢や志の実現を支援する【○キャリア教育の充実】 4 地域校としての役割を果たす【○保護者との連携 ○地域・関係機関との連携】	(9)～イ 学校関係者評価委員会の構成	
(4)結果の公表	通知票に同封し郵送する。各種広報資料、学校ホームページ、PTA総会等において、学校教育活動の評価報告を公表する。	学校運営協議会委員(後援会理事長、学校医、元PTA会員、会社役員、 村教育長、村内中学校校長、PTA会長) 7名 学校側参加者(校長、教頭、事務長、関係分掌主任) 7名 計 14名	

自 己 評 価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)～ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	規律ある学校生活と豊かな心を育む	①挨拶の励行、服装の確立、時間厳守の徹底に取り組む。 ②すべての教育活動を通して、自己有用感の育成、部活動を通して、責任感、思いやりの育成に取り組む。 ③いじめの早期発見、対応、命を大切にする教育、一人一人に寄り添った教育相談に取り組む。	①毎日、生徒指導部と生徒による登校指導を実施し、明るく元氣な挨拶の定着を試みた。登校時以外の場面でも、教員からの挨拶を積極的に行った。 ②生徒が主役となるように学校行事や部活動を運営した。その結果、生徒が互いを認め合いながら行事に取り組む様子が見られ、自己有用感や思いやりの育成につながった。 ③いじめ防止委員会の定期開催や、4月に実施した構成的グループエンカウンターによって対人関係構築能力の育成を図り、いじめの未然防止に努めた。また、いじめは7件あったが、いじめ対策委員会による困りごとへの早期対応やスクールカウンセラーとの積極的な連携の結果、どの事案においても重大事案とはならなかった。	A	①挨拶や礼節を重んじた指導が行き届き、地域から愛される存在である。相手より先に挨拶するなど社会人としての素養を高め、本校の魅力化向上のためにも継続して取り組んでほしい。 ②自己有用感や思いやりの心を醸成する上で、相手を敬う姿勢を身につけさせて欲しい。 ③いじめは必ず起こりうる問題との認識を徹底し、SNSやいじめトラブルの未然防止のため、生徒自身に考えさせる場面を設定して学ばせる機会を継続して実施して欲しい。 ※先に挨拶する生徒がどれくらい増えたか数値での把握を望む。	①挨拶が自然にできるよう、習慣作りのため登校指導だけでなく普段から先生方が手本となるよう率先して挨拶をしていく。 ②自己有用感の育成のため、行事においてできるだけ生徒の意見を尊重し活動に満足できるよう支援する。思いやりの心を育てるため、「ありがとう」の言葉が自然にできる声がけ運動やグループエンカウンターの際に感謝を伝えるプログラムを実施する。 ③スクールカウンセラーと連携した生徒支援に積極的に取り組む。今年度始めたグループエンカウンターに対する取り組みにおいて、本校教員が講師を務めるなど内容の発展を図る。
2	確かな学力を育む	①学習意欲を高める「わかる授業」の実践、主体的、対話的で深い学びの実現のため、ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の学習支援を進める。 ②ICT活用による学習効率の向上について、校内研修を実施し、全校体制で授業改善を進める。 ③公開・研究授業への参加を促し、校内外の研修に積極的に取り組む。	①ユニバーサルデザインの視点をさらに発展させるため、校外研修への参加や教員間での情報共有により、授業力の向上が図られた。生徒の学習アンケートでも、好意的な回答がほとんどであり、分かる授業が展開され授業に対する満足度が高まった。 ②英語科ではAI学習ツールを導入し、個別最適な学びの実践を模索した。以前から活用している学習ツールにおいても、生徒の活用を促進するため教員間での情報交換や学年と各教科との連携を深めることによって学習効率の改善を図った。 ③村の小中高教科連携協議会で異校種の視点を学ぶことによって、教員の指導力向上を図った。また、県総合学校教育センターの指導主事を招聘して研修を進めたことにより、授業力がより高まった。	A	①ユニバーサルデザインの視点による授業の展開により、生徒の学習意欲を喚起している。個別最適な授業や学習方法の工夫など、今後もさらなる発展を期待する。 ②遠隔授業やAIなどICTに頼り過ぎず、読み書きやALTを活用した対面での授業を大切にしてほしい。 ③系統的な学習を進めるために、小・中学校での研究授業を参観し学習内容や授業形態の把握を提案する。 ※目標の達成状況について数値目標を掲げて取り組んでもらいたい。 ※長期的視野に立ち、卒業生にも調査範囲を広げてはどうか。	①学んで良かった分かって嬉しいという授業が本校の特徴であると周知されるよう、ユニバーサルデザイン化の発展のために研修を推奨し、学びの満足度をさらに高める。 ②昨年に比較して利用率の向上した学習ツールの利活用について研修を深めることによって更なる活用を促進し、個別最適な学びの充実を図る。 ③引き続き地域小中高連携協議会やセンター指導主事を招聘して研修に努める。また、校内外で開催される研修や研究授業に積極的に参加する。
3	夢や志の実現を支援する	①三年間を見通した進路指導計画とその実践、学年に応じた総合的な探究の時間と運動したキャリア教育の実践に取り組む。 ②二者・三者面談を充実させ、生徒・保護者への情報提供と共有ができるよう取り組む。 ③放課後進路セミナーの実施内容を充実させ、組織的な進学・就職指導体制の構築により、進路目標の達成に取り組む。	①各学年との連携により生徒の進路希望を把握し、組織的な指導体制の構築を図った。総合的な探究の時間等で、村特産品に着目して地域との連携をすすめ、地域発展の意識を醸成するなど生徒のキャリア教育の充実に努めた。 ②生徒が主体的に進路選択できるよう、学年と連携して個別面談を繰り返し行った。また、進路通信を定期的に発行し保護者への情報提供に努めた。 ③各学年との連携を深め、学習ツールの活用を促進した結果、利用率が向上した。放課後の進路セミナーの内容を見直し、就職・進学ともに志望理由書対策講座を計画的に実施した。志望理由書の作成や面接対策の上で成果を上げたものの、国公立大学への入学者を増やすという地域の要望に応えていく必要がある。	A	①地域と連携した探究活動の取り組みを評価する。その上で、今後も地域社会の持続のために、探究活動のテーマを地域課題に関連したものとしてもらいたい。進路希望実現のため、体験活動の機会を多くして将来像を早期に具体化できるキャリア形成の取り組みを今後も継続する。 ②生徒個々の進路志向に応えるため、3者面談の精度を高めてもらいたい。また、保護者との質の高い連携も求められる。 ③入学した時点で3カ年のビジョンを作ることができるような進路指導体制の構築が求められる。難関大学への進学率を上げることのみ拘るのではなく、個々の進路希望の実現を優先させた方が良い。	①進路指導年間計画を全教職員が理解し、改善点等を議論し組織的に進路指導を進めるため、教員間の連携を強化する。 ②普段から生徒との個人面談を大切にして進路意識の高揚を図るまた、3者面談がより良いものになるよう、村内企業研究会や企業・大学見学等により事前に生徒や保護者向けの各種進路ガイダンスを行い進路情報を提供する。 ③放課後進路セミナーの充実を図るとともに、種検定や資格取得講座への挑戦を促し、個々の進路希望の実現を支援する。
4	地域校としての役割を果たす	①学校新聞、学校ホームページ等による学校情報の積極的な配信に取り組む。 ②地域等との協働による「人づくり」の実践に取り組む、多様な進路目標達成を支援する。 ③学校運営協議会を組織し、これまでの地域校活性化協議会の流れを踏まえ、学校の教育活動と教育環境の充実に取り組む。	①学校ホームページの更新を毎月継続し、最新の学校情報を発信できた。また、各報道機関に対して、戸鎖そば愛好会との交流など特徴的な行事の取材依頼を常に行った。 ②村内の企業や団体に対して積極的に講師を依頼し、地域社会に対する理解を深める試みを実践した。授業や特別活動を通じて、地域や社会で積極的に役割を果たそうとする姿勢を育成することができた。 ③学校運営協議会が3回実施され、学校の存続と発展を目指した熟議を行っている。	A	①新聞記事やテレビ放映等で生徒の活動を発信することで、生徒の活躍が手に取るように分かり、六ヶ所高校の評価を上げている。戸鎖そばとの交流及びそば祭りの協力では、愛好会の方々からの好評を得ており、地域の発展に寄与している。 ②世界で活躍する地域の人材を最大限活用して、今後も地域の企業等と連携を図り、地域の将来を担う生徒を育成して欲しい。 ③地元役場やエネルギー関連企業への就職に強く、地元根を張った学校をPRすると思う。また、地域とともにある高校として、これからも外向きの姿勢を生徒に伝授していったほしい。	①今後も、多くのメディアに情報提供を継続し、教育活動の発信に努める。また、SNSを活用することによって本校の特徴的な教育活動を情報発信する。 ②村内にある各研究所の現代物理学の研究者を講師に招聘して、最先端の知に興味を持たせ、生徒の探究心を刺激する。ロータリークラブと連携してアントレプレナーシップ教育を行う。 ③学校運営協議会に総合的な探究の時間に協力できる地域団体との橋渡しを依頼し、地域課題の解決に本校生徒が共同で取り組む体制を構築する。

(11)総括	基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学校生活について、定期的な面談実施、スクールカウンセラーと連携した構成的グループエンカウンターの実施・生徒への個別支援の充実により、いじめや問題行動に対して未然防止と早期解消を図った。基礎基本の徹底と教師の指導力向上について、全教員で生徒の学びに向き合いユニバーサルデザイン化を発展させた授業研究に取り組み、生徒の学が意欲を高めることによって全ての生徒が分かる満足度の高い授業の実現と授業力向上を図った。キャリア教育の充実について、総合的な探究の時間や課題研究の授業を活用して、地域特産品の生産者グループと交流を深め成果発表会を行った。保護者や地域・関係機関との連携において、村役場や地元企業のエネルギー産業に理解を深める事業を活用して本校独自の魅力化を図り、メディアに取材依頼をすることによって本校の教育活動が広く周知されるよう情報発信を行った。
--------	--